

生物多様性保全への取り組み 25年目を迎えた TaKaRaハーモニストファンド



宝酒造は、穀物や水、微生物など自然の恵みを受けて事業活動を行っています。このため、企業理念にも「自然との調和」を謳い、生物の多様性を保全する自然環境保護活動に積極的に取り組んできました。

1979年にスタートしたカムバックサーモンキャンペーンをはじめ、1985年に設立した公益信託「TaKaRaハーモニストファンド」、日本の松を守ろうキャンペーン、北海道ほたる計画、長野の宝を守ろうキャンペーン(ライチョウ保護)など、30年以上にわたり様々な自然保護活動に取り組んできました。

ここでは、これらの活動の中で、設立から25年目を迎える「TaKaRaハーモニストファンド」にスポットをあて紹介します。



公益信託「TaKaRaハーモニストファンド」

全国には、自然環境保全の活動や研究に地道に取り組む団体や個人の方々が多数おられます。宝酒造(現在の宝ホールディングス)は、1985年の創立60周年を機に公益信託「TaKaRaハーモニストファンド」を設立し、以来毎年、日本の森林や水辺の自然環境を守る活動や、そこに生息する生物を保護するための研究などに対して助成を行っています。2009年には、第1回からの助成先件数は延べ260件、助成金累計額は1億2,523万9,000円になりました。

2009年度は、「中海における水生植物群落再生のための実験研究」を通して高等水生植物中心の生態系への回復をめざす中海水鳥国際交流基金財団や「市民参加型干潟調査手法の普及と調査の実践」をすすめるNPO法人 日本国際湿地保全連合など10件が選出されました。



●2009年度「TaKaRaハーモニストファンド」助成先一覧

	助成先団体・個人	地域	テーマ
研究の部	NPO法人 サロベツ・エコ・ネットワーク	北海道	北海道・下サロベツ原野における自然再生に向けた泥炭採掘跡地状況調査
	世界遺産白神山地ブナ林モニタリング調査会	青森県	白神山地ブナ林の森林構造及び森林動態調査研究
	中海水鳥国際交流基金財団	鳥取県	中海における水生植物群落再生のための実験研究
	諸澤崇裕(個人)	茨城県	霞ヶ浦に生息するタナゴ類の季節移動の解明
	森本元(個人)	山梨県・静岡県	高山帯での劇的な環境変化への高山性鳥類の反応と繁殖生態に関する研究
活動の部	気仙沼大島観光協会	宮城県	小田の浜海水浴場「アクア・ピュア大作戦」
	NPO法人 中池見ねっと	福井県	希少な湿性植物の育成域拡大に関する実践活動
	NPO法人 日本国際湿地保全連合	愛知県・三重県	市民参加型干潟調査手法の普及と調査の実践
	NPO法人 内之浦湾を良くする会	和歌山県	海を育て漁場の宝庫に(海の草原づくり)
	指宿地区自然保護ボランティア協議会	鹿児島県	知林ヶ島イラストマップ作成

TaKaRa ハーモニストファンド:全国に広がる助成先

つづけなければ、自然はつづ

生物多様性の保全など自然環境を守る研究や活動に、ゴールはありません。

25年目を迎えたTaKaRaハーモニストファンドですが、これもひとつの通過点。これからも自然を守る研究や活動を支援していきます。

ここでは、これまでに日本全国に広がった助成先の中から、その一部を紹介しています。



アユモドキの観察会

助成先の声 01

2003年 瓜生川周辺水田地帯の淡水魚類(特にアユモドキ)の研究

代表 阿部 司 様
瀬戸自然史研究会

瀬戸自然史研究会では、国の天然記念物・アユモドキを中心に、さまざまな生き物が生息できる自然環境を保全するための調査・研究を続けています。

かつてアユモドキは岡山や京都、大阪などにも生息していましたが、今では岡山県の一部と琵琶湖・淀川水系に分布するのみで、環境省の絶滅危惧種にも指定されています。これまでの研究で、アユモドキは川と水田を回遊し、田植え時期に水を張った田んぼの周りで産卵し、また元の川に戻っていくことが分かっています。また、TaKaRaハーモニストファンドの助成金を活用し、岡山県吉井川水系における生態系を調べた結果、アユモドキが棲む川は他の様々な生き物が生息する多様性の高い環境であることが分かりました。

私たちにとって助成金をいただけることは大変名誉なことで、身の引き締まる思いと同時に大きな励みになっており、これからも環境保護活動をされている方々と情報交換しながら、幅広く自然の保全に取り組んでいきたいと考えています。



岡山

- 1987年 カプトガニ保護調査
- 1989年 アユモドキの水田による自然産卵増殖
- 2003年 瓜生川周辺水田地帯の淡水魚類(特にアユモドキ)の研究

広島

- 1995年 芦田川水系のスイゲンゼニタナゴ保護活動
- 2008年 ミヤジマトンボ生息地の復活研究

鳥取

- 1987年 大山の一木一石運動
- 2009年 中海の水生植物群落再生の研究

島根

- 2002年 宍道湖・中海甲殻類の多様性の研究

山口

- 2006年 放流ヒメダカによる野生メダカの遺伝子汚染研究

福岡

- 2005年 津屋崎入江のカプトガニ産卵調査と汽水域の生物調査

大分

- 2004年 ベッコウトンボの幼虫飼養・増殖の活動

熊本

- 2005年 阿蘇花野再生プロジェクト

宮崎

- 2004年 日向灘海岸を考えるサミット

鹿児島

- 1990年 屋久島、永田、田舎浜のウミガメ産卵生態調査
- 1991年 南西諸島のアリ相:生物多様性の維持(沖縄含む)
- 1995年 大隅半島の希少なトンボの現況調査

沖縄

- 1986年 河川溪流性昆虫、特にヤゴ類の生態研究
- 1992年 サンゴ群集の復元と自然教育への活用
- 2007年 クメジマボタルが生息する川の保全

静岡

- 1994-95年 タヌキノシヨクダイ保護の基礎研究

愛知

- 2001年 河川敷におけるホンダダヌキの生態把握

岐阜

- 1990年 アジメドジョウの生態研究

三重

- 1988-89年 ハリヨとネコギギの分布と生態の研究
- 2008年 ヒヌマイトトンボの保護・保全活動

大阪

- 1989-91年 ブナ林の現状と更新の研究
- 2006年 雑種性帰化タンポポの遺伝的多様性研究
- 2007年 イタセンパラの寿命に関する研究

京都

- 1986-87年 アユモドキの生息研究
- 1986-87年 オオセンチコガネの生態研究
- 2002年 亀岡のアユモドキ繁殖地の調査

兵庫

- 1996年 播磨地方のため池の絶滅危惧水生植物の現況と保全

滋賀

- 1988-89年 山門湿原の自然環境保全研究
- 1996-97年 ポテジャコに住む自然環境回帰活動
- 2007年 水田地帯の魚類相の変遷と保全の研究

奈良

- 1994年 春日山原始林の水生昆虫減少の研究

和歌山

- 1990-91年 熊野の自然保護活動
- 1993年 南紀州の海岸貝類相の変化の研究

愛媛

- 1988年 宇和海の生物群集保全研究

香川

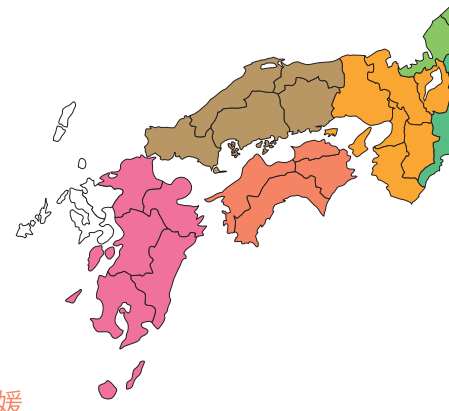
- 2000-01年 生物相の基礎的研究

徳島

- 2000年 吉野川河口干潟の保護活動

高知

- 1998年 四万十川産アカメの保護育成



かない。

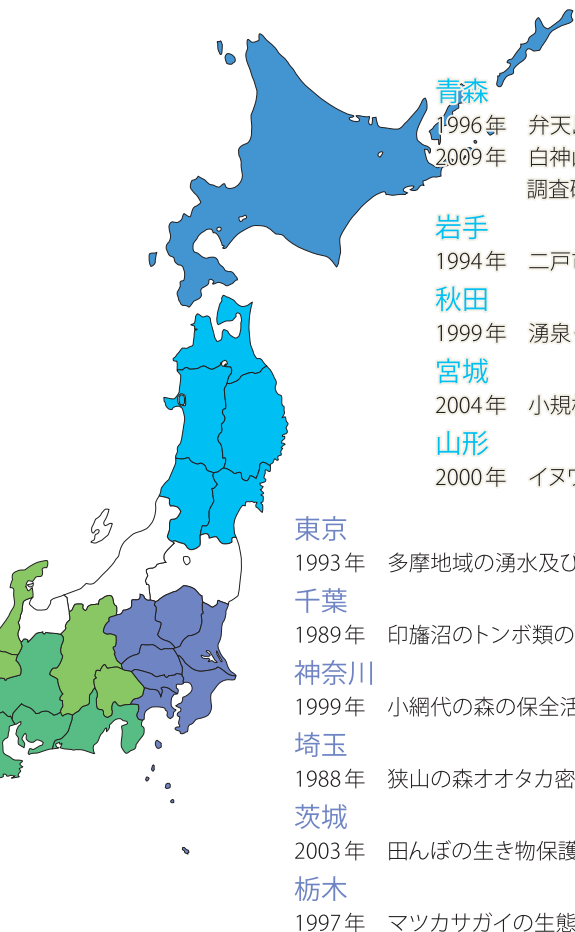


複数県での活動

- 1996年 国内におけるイエズメの分布拡張研究
- 2001年 日本で産卵するアカウミガメの餌場の探索
- 2005年 ハマグリ資源の遺伝的攪乱状況解明

北海道

- 1986年 阿寒湖マリモの保護活動
- 1997年 樽前山山麓冷温帯性落葉樹林昆虫群集の生物多様性研究
- 2002年 移入サケ科魚類の現状と在来魚種への影響
- 2003年 斜里川河川環境保全、イトウの産卵環境解明と保全
- 2006年 キウシト湿原の保全・再生事業



青森

- 1996年 弁天島の生物多様性調査と自然の復元保存
- 2009年 白神山地ブナ林の森林構造及び森林動態調査研究

岩手

- 1994年 二戸市の名木・巨木調査

秋田

- 1999年 湧泉・水路に生息するイバラトミヨの研究

宮城

- 2004年 小規模水田魚道の遡上実験

山形

- 2000年 イヌワシ等の生息分布・密度・営巣地調査

東京

- 1993年 多摩地域の湧水及び崖線の緑の保全活動

千葉

- 1989年 印旛沼のトンボ類の生息実態調査

神奈川

- 1999年 小網代の森の保全活動

埼玉

- 1988年 狭山の森オオタカ密猟監視報告

茨城

- 2003年 田んぼの生き物保護活動と教育活動

栃木

- 1997年 マツカサガイの生態調査研究

山梨

- 2001年 湧水池および水源林の保全

長野

- 1992-93年 絶滅危惧植物の調査研究
- 2007年 水草と絶滅危惧種の保護と自然界への復元研究

石川

- 1990年 巨樹の会の活動

福井

- 2004年 アベサンショウウオの新規森林生息地の探索
- 2009年 希少な湿性植物の育成域拡大の実践活動

助成先の声 02

2001年日本で産卵するアカウミガメの餌場の探索

事務局長 水野康次郎 様
特定非営利活動法人 日本ウミガメ協議会

特定非営利活動法人 日本ウミガメ協議会では、絶滅が危惧されるアカウミガメの効果的な保護対策が提示できるよう生態の調査・研究や啓発活動、また子どもたちを対象に環境イベントを催すなど教育活動などを行っています。

1950年以降急激に減少している北太平洋のアカウミガメですが、その生態はあまり知られておらず、近年の調査により、日本沿岸とメキシコ沖の間を回遊するとともに、産卵地が唯一日本の砂浜であることが分かりました。

協議会では、アカウミガメにとって貴重な日本の砂浜と海の環境保全を目指し、全国の産卵分布を明らかにするとともに、漁業者の方々や海辺に暮らす人たちと連携しながら詳細な調査を行っています。またTaKaRaハーモニストファンドの助成金を活用し、アカウミガメの食性や餌場探索を行っています。こうした地道な取り組みを通し効果的なアカウミガメの保護対策に役立つと同時に、すべての生き物が共存できる環境づくりにつながると確信しています。



ウミガメ孵化の調査